

福島教区報

天理教福島教務支庁

〒960-8022 福島市新浜町7番26号
TEL 024-534-2251 / FAX 024-534-2404

教会数 123ヶ所
布教所数 110ヶ所
長ふほく数 3378人
(R180.8月末現在)

教務支庁ひのきんへ

〜解体ひのきしんに延べ151人が汗を流す〜

東北6県の教務支庁として大

正6年に建てられ、時に修復の
工事等をしたが、長年の間、
地域活動の拠点として使われて
きた福島教務支庁。近年、青年
会室及び教職舎（婦人会室・旧
住込人室）に、老朽化による壁
のひび割れや雨漏りが生じてき

ていた。

この度、ご本部より支援をい
ただき、教職舎を新築させてい
ただけることとなり、合わせて
トイレの改修、旧神殿廊下新築
及び事務所一部改修もさせてい
ただくこととなった。それに伴
い、9月17日から19日にかけて

取壊しの工事がひのきしん
の手で行われた。連日40人
以上の人が集まり、瓦を下
したり、床板を剥いたりな
どをした。また、ご婦人の
方は、障子戸の障子紙を剥
したり、ごみの分別をする
などをした。

なお、15日からはひのき
しん者の受入れのためのひ
のきしんも行われ、延べ13
名が事前ひのきしんに取り
組んだ。

9月26日には本部神殿で
「お願いごとめ」がつとめ
られ、お運びによって理の
お許しを戴いた。

今後、10月2日には「地
鎮祭」が行われ、瓦葺き平
家建1棟の教職舎の工事
が、約6カ月の工期で進め
られ、来年の春には竣工す
る予定となっている。

(Z・F)



全教一斉にをいがけ

～一人ひとりが多くのよつぼくの活動を～

今年も9月を「にをいがけ強調の月」と定め、28日から30日の3日間を「ようぼく実動の日」として、一人ではなかなかをいがけができないようぼくが、仲間と共に布教活動がする機会とされた。また、今年か



ら「教会長路傍講演の日」は、3日間のうちいずれか1日となり、支部の実情に合わせて日程を組めるようになった。

相双支部（目黒淳支部長）では、東日本大震災後、支部としてまとまった活動がなかなかできないという状況が続いてきたが、避難指示が徐々に解除され、地域の住民も帰還できるようになりつつある今年、8年ぶりに支部として全教一斉にをいがけデーの活動が実施された。28日、3名がJR原町駅前に集まり、教会長2人の路傍講演と、行き交う人へのリーフレット配布を行った。

活動を終えて目黒支部長は、「支部としてをいがけ活動ができてよかった。今後も少しずつ、支部としての活動ができるようになればと思う。」と話した。（Z・F）

道 教職員 の 集い

「道の教職員 夏の集い」
1名参加

8月7、8日、おぢばで「第61回道の教職員 夏の集い」が開催され、327名が参加した。福島教区からは1名が参加した。

深谷善太郎・本部員（学校法人天理大学理事長）の「信条教育の基本」と題した特別講演や、伊藤芳正氏（幅下大教会長）の「心を育てる」とのテーマの教育講演をはじめ、グループトーク、体験発表などのプログラムで、今年のテーマである「育てる工夫と育てる努力」について、それぞれが現場で心掛けていることなどをお互いに話し合った。また分科会では、「特別支援教室」や「不登校・いじめ防止を目指したピア・サポート」「コモンセンスペアレンティング教室」など、11コース設けられた中からそれぞれが事前に選択したテーマについて、研鑽を深め、今後の教育実践に生かそうと、熱心に受講した。

（Z・F）

少年ひのきしん隊 本部練成会

立教181年少年ひのきしん隊本部練成会に、福島教区団(近藤直光団長)は隊員7名(男子3名、女子4名)、カウンセセラ―3名の計10名



で、7月31日入隊、8月5日解隊まで、「ひとのため つくすよるこび ひろげよう」を合言葉に、ひのきしんに汗を流しながら、帰参の皆さんに笑顔と冷たいお茶を提供して、大勢の皆さんに喜ばれて帰って来ました。7月29日に、教務支庁にて事前研修会をしてからの入隊となりました。

今年の猛暑の中にも、体調を崩した隊員も出ずに、期間中元気に通れた事に、改めて親神様のご守護と感謝致しました。また、カウンセセラ―の方々も、毎年の経験から世話取りにも余裕が持てるようになり、隊員も安心して過ごせるようになったのも、大きな進展が見えた少ひ隊だったように思えました。



【参加隊員】

耶麻支部	二瓶 幸斗 (3年)
会津支部	二瓶 旬花 (1年)
	古川 美織 (3年)
	間宮 裕理 (3年)
いわき支部	渡部 紘基 (2年)
	上野 真弥 (2年)
	梅井 智佳 (1年)
カウンセセラ―	斎藤 峻徳 (安達)
	渡部 嘉友 (寄会)
	平澤 真衣 (田村)

また、事後研修会では、長島ハイランドで、少ひ隊での疲れを吹き飛ばすように、遊園地でそれぞれ好きな乗り物に乗り、大声を出して絆を深めて帰って来ました。

おちばでの伏せ込みは、育成の上で大事なものと考えておられます。どうぞ、今後も少年会活動の上に、少年ひのきしん隊本部練成会の上に、お力添えを賜りますようお願い致します。

(N・K)

青年会

「東北ブロック大会」ニヨ 青森

毎年恒例の行事、「東北ブロック大会」が6月30日～7月1日に青森で開催されました。福島教区の参加者は青年会員11名、女子青年1名の計12名でした。青森は非常に遠いイメージではありませんでしたが、やはり遠かったです。

青森教区開催は、前評判が高く、非常に有意義なプログラムでした。男女に分かれ、男性は「わかりやすい教理勉強会」を受講し、女性は「ヨガ教室」、「カイロプラクティック実技講座」と、やや女性優遇の気配を感じながら楽しく学ばせていただきました。夜はバーベキューをし、景品の当たるじゃんけんゲームなど盛り上がりながらの親睦会が行われました。福島教区では初参加者が4名おりましたが、青森教区の方々が上手に盛り上げて下さり、皆が楽しんで帰ってくる事が出来ました。ありがとうございました。

この度、青森教区は100周年に向けてのブロック大会と称しておりました。我々も人数は及びませんが、そのつもりで参

加させていただきましたので、100周年に向かつての熱を分けて貰えたのではないかと思います。しかし100周年を過ぎても青年会が終わるわけではなく、再度気を引き締めて頑張つて参りますので皆様にはこれからもご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。(N・U)



道友社

東北ブロック
社友研修会

8月29日～30日、「東北ブロック社友研修会」が秋田で開催され、福島教区からの4名を含め33名が参加した。

まず、道友社の安藤次長が「文書布教の展開」と題して講話。現在の『天理時報』発行部数は11万部と低迷しており、それは大手新聞にも見られるウェブの発展による紙離れが大きな理由の一つである。道友社でもウェブで『天理時報』を読めるが、今後(4)もウェブでの文書布教を充実させていくとのことでした。

次に、北村編集出版課出版デスクが「広報紙の作り方」と題して、記事の書き方、広報紙のレイアウト、書体の選び方など、読みやすい、読んで見たくなる広報紙の作りかたを教えてくださいました。社友として、天理時報への記事提供、広報紙の作成において、大変参考になりました。

(H・S)

災救隊

本部主事の視察の元、災救隊訓練を実施

福島教区災害
救援ひのきしん
隊(生江一行隊
長)は、6月30
日と7月1日の両日にわた
り、本部災救隊・橋本武長
本部主事の視察を受けて教
区訓練を行った。

初日は、いわき市の「特
養せいざん荘」に集合。結
隊式の後、「せいざん荘西
山館」と「こどもげんき館」

に分かれて、草刈りを行っ
た。30度を超す酷暑の中、
こまめに水分補給を取りな
がら、女子隊を含む21名が
勇んで作業に当たった。

2日目は、18名の隊員が、
同じくいわき市にある「い
わき育英舎」の敷地内外の
草刈りを行った。前日に続
く暑さ厳しい中、それぞれ
の体調に気をつけながら作
業を行い、ほぼ予定通りに
無事に終了することができ
た。

解隊式には、「いわき育
英舎」の施設長・市川様が
謝辞を述べられた。

なお、来年5月には「東
北北海道ブロック合同訓
練」が秋田で開催されます。
有事の際に即座に動けるよ
う、訓練させていただきま
しょう。

(K・K)



厚生部

研修会「金銭的困窮者に対する
助成・救済制度とは」

福島教区厚生
部(齊藤容久部
長)は、7月2
日、教務支庁で研修会を開
催、教区役職者を中心に33
名が参加した。今回は、生
活の中にある様々な苦勞、
特に金銭的問題がからむ事
情を解消・低減させる行政
的制度を知ること、おた
すけにつなげてもらいたい

との思いで、講師に、清水
正美先生(城西国際大学福
祉総合学部教授)をお招き
し、「金銭的困窮者に対す
る助成・救済制度とは」と
のテーマでお話を伺った。

金銭的困窮者に対する制
度という点、「生活保護制
度」が戦後すぐからあるが、
生活困窮者が増加する中
で、早期に支援を行い、自
立促進を図る目的で「生活
困窮者自立支援制度」が近
年できた。それにより就労
や自立支援に関する相談等
を実施するとともに給付金
支給などの策を講じること
が出来たようになった。ま
た、「生活福祉資金貸付制
度」もあり、まずは、地域
の民生委員や市町村の社会
福祉協議会へ相談すること
を勧められた。

(5)

(K・S)



道の教職員の集い

「成人塾」開催



道の教職員の集い（古川善一代表世話人）は、8月16日から17日、福島教務支庁を会場に「成人塾」を開催。小中学生3名、スタッフ5名が参加した。

参加者は、揃ってお願いごとめをつとめた後、それぞれに学習を進めた。参加者が少なかったため、大学生スタッフ2名がほぼマンツーマンで学習をみてくれた。

食事も、参加者全員で協力して準備をし、自分達で作った食事をおいしくいただいた。（Z・F）

学生会

高校生の集い

「まなびば3いわき」

開催

学生担当委員会（杉澤元和委員長）では、8月18〜19日、いわき海浜自然の家を会場に、福島教区少年会の「キャンプ練成会」と合同で高校生の集い『まなびば』を開催し、高校生3名、スタッフ3名が参加した。

最初に入所のオリエンテーションがあり、蜂や蛇に気をつけるようにと話を聞き、次にブルーシートの上でウオーミングアップが行われた。そして夕食作りに取り掛かり、シーフードバーベキューに舌鼓をうった。

翌日は、火水風のご守護をチームで考え、プレゼンし合って、身近な事に親神様の親心を感じた。その後、学生担当委員からの話を聞き、自分が感じたとご守護を話し

合った。

高校生の集いだが、少年会員も加わった今回の『まなびば』。少年会員が中学を卒業後、学生会活動に参加しやすくなり、学生会員は後輩の世話どりができるように、道が続いているように感じる。（M・S）



少年会

「親子キャンプ錬成会」で自然を満喫

少年会（近藤直光団長）では、今年も8月18日～19日の1泊2

日の日程で、いわき海浜自然の家で「親子キャンプ錬成会」を開催し、少年会員7名、育成委員3名が参加した。今回も学生会の「まなびば」との合同開催で、「まなびば」にも少年会員は楽しく参加し、初日のバーベキューやお楽しみ行事でのスイカ割りでは、親睦を深めながら和気あいあいと楽しく過ごした。

2日目には、「アクアマリンふくしま」に全員で行き、時間を忘れて珍しい魚を観賞したり、ふれあい広場では生き物に触ってみましたりと、夏休みの思い出を作って帰ってきた。



(N・K)

ふるさと会

「ふるさと会総会」開催

天理大学ふるさと会福島支部（平澤勇一支部長）では、9月2日、福島教務支庁で、本部から岡田正彦先生（ふるさと会副会長）をお迎えし、

総会を開催、会員10名が参加した。支部長、岡田先生のあいさつの後、出席者が自己紹介と合わせて近況を報告した。議事では、支部長より福島支部の現状報告があり、役員人事についても原案通りに承認された。

続いて、岡田先生より、本会からの報告とお願いがあり、出席者は、大学の現状を尋ねたり意見を述べたりして、母校の発展のために思いを寄せた。

(Z・F)



基礎講座

去る9月16日(日)午後1時30分～3時まで、福島の福島テルサで、今年2回目の天理教基礎講座(福島会場)が開講されました。

講者は15名で、その内、初めてを受講者は2名でした。

会場)が開講されました。

講座は、ビデオによる天理教の紹介と講師・生江一行先生(新河沼分教会長)によるお話で、ご自身の体験をもとに、心の持ち方をお話くださいました。受

の感想が寄せられた。

受講者からは「元氣ももらった。」「講師の先生がすばらしく感動した。」「などの感想が寄せられた。

福島で開催されるようになって10年を超え、受講者が少なくなってきた中で、スタッフ一同、基礎講座の発信力をもっと高めていきたいと思えます。どうぞ、布教の一手段として、今後もご利用いただきますようお願い致します。

(K・K)



天理教基礎講座(福島会場)
11月3日(日)
午後1時30分開講
いわきラトフ6階
講師・杉澤元和先生

学生会

「道の学生ひのきしんデー」
 教務支庁解体ひのきしんに汗を流す

9月17日、道の学生から親神様のご守護が全国各地で行う「道の話を聞いて、ひのきしんを始めた。当初は教務支庁周辺のゴミ拾いをする予定だったが、教務支庁教職舎解体ひのきしんにあたり、この旬にぜひお手伝いさせてください。この思いから、襖紙はがしやガラ運びなどの作業を行った。昼食後は参加者たちで親睦会で楽しんだ。これから使わせていただく教務支庁教職舎のふしんに、ほんの少しでも携わることができ、先の楽しみを頂戴できたと思う。



(M・S)